

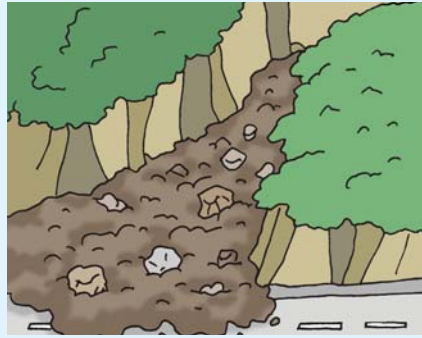
土砂災害から身を守りましょう

土砂災害は、突発的に発生し、すさまじい破壊力で一瞬にして生命や財産を奪ってしまいます。土砂災害の発生を予測するのは難しいものですが、前兆現象が見られる場合があります。身近に土砂災害の危険箇所があり、次のような現象を確認した場合は、早めに避難しましょう。

土砂災害から身を守りましょう

土石流

長雨や集中豪雨などで、山腹や谷川の石や土砂が一気に下流へ押し流されます。いきおいが強く、圧倒的なスピードで、進行方向にあるものを次々とのみ込み、壊していきます。



！ こんな前兆現象に注意！

- 山鳴りがする。
- 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。
- 川の水がにごったり、流木がまざったりする。
- 腐った土のおいがする。

がけ崩れ・山崩れ

雨水がしみ込んで、やわらかくなった斜面が急に崩れ落ちます。日本で最も多い土砂災害で、人の住む家の近くでも突然起きるため、逃げ遅れて犠牲となる人も多い災害です。



！ こんな前兆現象に注意！

- がけからにごった水がでる。
- 地下水やわき水が止まる。
- 斜面のひび割れ、変形がある。
- 小石が落ちてくる。
- がけから音がする。
- 異様なにおいがする。

地すべり

地盤が弱い土地に豪雨が降り、ゆるくなった斜面の一部が、地下水の影響と重力で下へ移動する現象です。ひとたび発生すると、家や道路、鉄道など広い範囲に被害を与えます。



！ こんな前兆現象に注意！

- 地面にひび割れができる。
- 井戸や沢の水がにごる。
- がけや斜面から水がふき出す。
- 家やよう壁に亀裂が入る。
- 家やよう壁、樹木、電柱が傾く。

危険な区域を事前に確認

大分県は土砂災害防止法にもとづき、土砂災害のおそれがある区域を「土砂災害警戒区域」「土砂災害特別警戒区域」として指定しています。自宅などが該当するかハザードマップで確認しておきましょう。

土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

土砂災害が発生した場合は住民に危害が生じるおそれのある区域のことです。

土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

土砂災害警戒区域のうち、土砂災害が発生した場合に建築物がこわれて住民に著しい危害が生じるおそれがある区域のことです。なお土砂災害特別警戒区域は開発行為の許可制などの制限や、建築物の構造規制などがあります。



土砂災害警戒区域（例）

土砂災害警戒情報

土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、対象となる地域を特定して警戒を呼びかける情報です。大分市が警戒レベル4避難指示などを発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、大分県と気象庁が共同で発表します。この情報が出たら、特に注意が必要です。

がけ地等から避難するときのポイント

長雨や豪雨に注意

大雨による注意が呼びかけられたら、早めの避難を考える。



土石流が起きたら

土石流のスピードは速く、流れに背を向けて逃げても巻き込まれてしまうので、土砂の流れの方向に対して直角に逃げる。



前兆現象に注意

土砂災害は前兆現象がみられることがあるので、前兆に気づいたら、避難情報などが出ているなくても、自分で判断して避難する。



避難が遅れたら

危険区域外への避難が困難になった場合は、なるべく頑丈な建物の2階以上で、斜面から離れたところに位置する部屋に避難する。



危険区域を出る

不安を感じたら、避難場所や避難所に行かない場合でも、念のため土砂災害警戒区域や土砂災害危険箇所から外に出ておく。



避難した後は

土砂災害は雨のピークを過ぎた後に発生する場合もあるので、避難情報などが解除され安全が確認できるまでは帰宅しない。



土砂災害警戒区域及び特別警戒区域は、インターネットからでも確認できます。

大分県土砂災害警戒区域等情報インターネット提供システム
https://sabo-oita.jp/dosya_map/



●問い合わせ先 河川・みなと振興課 直通電話：097-537-5632

！ 防災・減災キーワード

「土砂キキクル」大雨警報（土砂災害）の危険度分布

土砂災害発生危険度の高まりを地図上で5段階の色分け（危険度は低いほうから白→黄→赤→紫→黒の順に高い）で示す情報で、気象庁のホームページで確認できます。10分ごとに更新されるので、どこで危険度が高まっているかが詳しくわかります。土砂災害警戒情報などが発表されたら合わせて活用しましょう。

気象庁 キキクル 検索

